

第2回

そうだったの!?

言葉や国語について考えるこの欄は、リニューアルした前号・夏号から始まり、文化庁の「国語に関する世論調査」などを参考にしている。

「鳥肌が立つ」

今回のテーマは「鳥肌が立つ」。ロンドン五輪観戦などで「感動した、鳥肌が立った」と使われることが多かったが、本来「鳥肌とは怖かったときに立つもので、感動した時に立つもの



ではない」。いまや間違っ使われているようだ。それでも意味は通じてしまうから言葉は不思議。

「大相撲の千秋楽、日馬富士と白鵬の死闘を野田首相は、『鳥肌が立った』と評した。日本語の乱れはもはや、失笑するしかない。はてな、こらえきれずに笑ったのか、笑いも出ないくらいにあきれたのか」(産経抄、9月24日付)。新聞の1面コラムで扱われた首相の発言。この「失笑する」との意味も「笑いも出ないくらいあきれ

と思う人が多く、先の文化庁調査では60.4%だった。「こらえ切れず吹き出して笑う」というのが本来の意味だが、27.7%と少数派だ。

こうしたことは、ほかにもあって、「世論」は“よろん”と読むのが正しいが“せろん”とも言うようになった。「視線」(しせん)にしても、写真撮影で「めせんをこちらにください」なんて言われたことがある。

誤用したとしても、御用にはならない。

電子書籍アプリ『白門書房』



『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、日本の大学初の電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。Apple Inc. が運営するiPhone、iPod touch、iPad向けソフトウェアのダウンロードサービスであるApp Store (アップストア) から『白門書房』をダウンロードします。Appストアへは、無線LAN (Wi-Fi) を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』をダウンロードすると、あらかじめ本欄に収められている大学案内他4冊の広報誌を読むことがで

きます。ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、3GやWi-Fiを通じて「ストア」にアクセスし、何冊でもダウンロード可能です。

なお現在、Android版も開発中であり、近々デザインを大幅に変更してリニューアルを予定しています。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、電子書籍出版社である想隆社が開発したものであり、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>